

MIDLAND

BT R1 プラス

価格:2万9700円 (シングルパック)
5万4200円 (ツインパック)

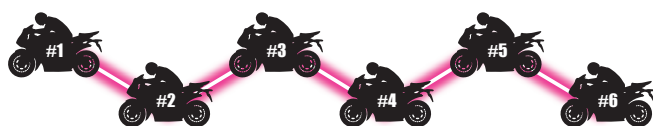
本体サイズ:W83×H45×D18mm
本体重量:48g
Bluetooth Ver:5.0
最大通話人数:6人
連続通話時間:最大20時間
防水性能:IPX6



ソフトウェアが大幅に進化し
コストパフォーマンスが向上!

最大6台まで接続が可能に

●ソフトウェアの改良により、グループ通話モードにおける同時会話可能人数が、従来型のアドバンストの4人から6人に増加した。ペアリング方法はアドバンストと同じ#1と#2、#2と#3、#3と#4……とつなげていくチェーン方式で、例えば#2が途中でグループから外れた場合は#1と#3とでペアリングを行う必要がある



音響機器メーカー RCF監修の音質

●世界のさまざまな施設の空間オーディオシステムを手掛けるRCF社がヘルメット空間を創造。Apple MusicのドルビーアトモスやAmazon Musicの360リアリティオーディオに対応している楽曲がすばらしい臨場感で聞くことができる。付属のBASSクッションを装着すると迫力の重低音サウンドが楽しめる



2台間で通話しながら音楽やナビを聞ける

●従来型のアドバンストだとスマホを介して音楽やナビ音声を楽しんでいる最中にインカムでの会話を行う際はナビ音声や音楽が聞こえなくなるが、「プラス」の2台間に限り会話の最中でもナビ音声や音楽がバックグラウンドとなって聴き続けられる。アドバンストでもアップデートで同様の機能が得られる



操作性に配慮したデザイン



●ベース部と本体との接続はマグネット式でRCF採用モデル間では共通部品。スピーカーの配線はベース部に接続するので本体の脱着が気兼ねなく行えて拡張性も高い。本体のスイッチはとがった形状になっており、グローブをはめたままでも把握しやすくクリック感も良好

三ツドランドのインカムの中でも中堅に相当するモデルがBT R1アドバンスト。そのマイナーチェンジ版が「BT R1プラス」だ。外観は従来機のアドバンストと同様でパッケージや装備品も変更されていないが、大きな特徴はソフトウェアのアップデートによりデータの通り道であるバンド幅が2倍となり、通話中でもナビ音声や音楽がバックグラウンドとして聞こえるようになったこと、同時通話人数が4人から6人に増えた点だ。

バックグラウンド機能を備えた他のメジャーメーカー製品はフルートウースチップを2つ搭載しているのに対し、「プラス」はシングルチップで実現させており、それが1万円以上の価格差となって現れている。価格はシングルパックでアドバンストから2700円アップするが、アドバンストもソフトウェアのアップデートで同じ性能を享受できることもうれしい。アップデートはもちろん無料で、8月末の配信を予定している。

また、空間オーディオに対応する点も特徴だ。通常の音楽でも音質の良さは感じられるが、特に空間オーディオ対応音源を聞くとヘルメット内で立体的に響く音に感嘆する。ワンランク上の性能ながらシングルパックで3万円を切る価格ということもあり、ソロで走ることの多いライダーにもお薦めできる。